

ココロ踊る！山麓生活のススメ(第9回)

家庭菜園1年生 ～実りの季節～

2021.12.17

土地を入手してから、家づくりに先行して始めた家庭菜園。夏には面積も広がり、オクラのほか、ピーマン、トマトなどの夏野菜、さらに、ジャガ芋、サツマ芋、里芋、カボチャ、大豆など種類もだいぶ増えた。今回は盛夏から収穫までを振り返ってみたいと思う。



大豆の成長を観察する夫とガク

ひたすら草取りをした夏

落花生の代わりに植えたオクラ(本記事第6回「家庭菜園1年生 ～落花生の事件簿～」参照)をはじめ、夏になると野菜たちはぐんぐん成長した。でも、大きくなるのは野菜だけでなく、雑草たちも負けていない。根こそぎ抜いたつもりでも、1週間もするとまた生えてくる。そのうちに引き抜くのが間に合わなくなり、鎌で刈るようにした。今年は長雨で作業ができない日もあって、そんな時には野菜よりも大きく育ち、雑草を栽培しているのか、野菜を作っているのか分からない状態になってしまう。

ガクの離乳食に使おうと6本も植えたカボチャはツルを伸ばして雑草と入り交じり、区別するのも難しくなってしまった。困っていると、ある時、実家の父がエンジン式の刈払機を購入した。「これで、雑草を全部刈ってあげるよ」とパワー全開で、畑周辺の草を生え際からきれいにしてくれた。

見違えるようにスッキリして、夕方、草を片付けていると、カボチャの葉が全部しおれている。朝は元気だったので、水切れではないと思うけれど……とツルをたどっていくと、なんと根元からスツパリと切られていた。父が勢いに任せて雑草を刈るときに、カボチャもいっしょに切ってしまったらしい。ゴブシぐらいの大ききの実をいくつも付けていたけれど、それでカボチャも全滅……。初めての畑作業では、思いもよらないハプニングが起こるものだ。



作物の間の細かい所は、ひたすら手作業で雑草を引き抜く

迎えた実りの季節… 続きを読む